



なるほど！投資のキホン③ — 株価が示すもの

今回は、「株は売買されても会社に直接お金は入らない。それでも会社は株をむやみに増やさない。それは株価が示しているものを重視しているから」というお話でした。では、企業が重視しているものは何でしょうか？

✔ 株価は「信頼」のバロメーター

株価は単なる値段ではありません。「この会社は成長が期待できるか」「経営は信頼できるか」といった、**社会からの評価**のあらわれです。

多くの人が「いい会社だ」と思えば買われ、不安が広がれば売られる。その結果が、株価です。

✔ お金は“ある”だけでは意味がない

たしかに、株を発行すれば会社には現金が入ります。しかし、そのお金を使って利益を生み出せない、成長につなげられないのであれば、株主はこう思います。「お金を集めたのに、何もしていない」。

お金は、使ってこそ生きるもの。ただ持っているだけでは、評価にはつながりません。

✔ 株価が下がると、さらに苦しくなる

株をたくさん発行すれば、需給バランスで株価は下がりやすくなります。株価が下がるということは、「この会社への信頼が弱まっている」と見られるということです。

その状態でさらに資金を集めようとする……

▶ 安い価格で新しい株を発行しなければならない ▶ より多くの株を発行しなければならない

▶ 結果として、さらに株価が下がる。

「**株価が下がる → 増資する → さらに下がる**」という**負のスパイラル**に入りやすくなります。

✔ 信頼は銀行や取引先にも広がる

株価は、投資家だけでなく、**銀行、取引先、働く人も見えています**。

株価が低迷していれば、「銀行からお金が借りにくくなる」、

「取引条件が厳しくなる」、「就職希望者が少なくなる」

といった影響が出ることもあります。

🔍 株価は、その会社に対する社会の信頼の表れ。

高い株価は、その会社の成長を後押しする追い風になります。

💡 信頼が、未来をつくる

会社は社会からの信頼（＝株価）を守るために、むやみに株を増やしません。

そして、**投資とは、誰かが勝つための仕組みではなく、**

成長を信じ、時間を味方につけること。

企業型DCもまた、社会全体の成長に長期で参加する制度です。

短期の値動きではなく、長い目で、共に成長を見守りましょう。

次回からは、「債券」についてお話しします。株とはどう違うのか。

なぜ“安定”と言われるのか。

投資のもう一つの柱を、一緒に整理していきましょう。

🌱 「信用を積み上げる」

株価は、社会からの信頼のあらわれ。会社も個人も、“目先の利益”ではなく“信頼を積み重ねる姿勢”が、長い時間の中で大きな差になります。投資も仕事も、今日の行動が、未来の評価をつくっています。

